

Salone del Mobile.Milano

ミラノサローネ国際家具見本市

郊外のフィエラ会場で開催された「第56回ミラノサローネ国際家具見本市」。2000以上のメーカー、デザイナーが出演し、4月4日～9日の会期中に34万3000人強の来場者が訪れた。

KARIMOKU NEW STANDARD

これまで市内会場で展示を重ねており、ミラノサローネの見本市会場へは初出展となったカリモクニュースタンダード。壁を立てて奥行きをつくり、シーンごとに家具をレイアウトして、世界観を伝えながら製品ごとの持ち味が伝わる展示構成だった。居住空間そのものの設えでなく、簡略化した書き割りのような壁が、よりプレゼンテーション効果を上げている。会場構成は、ブランドのクリエイティブディレクターである David Glaettili による。



Emeco

Jasper Morrison がデザインした家具シリーズ「1 Inch」は、構造的な強度と省資源のバランスを意識し、快適さや美しさにも配慮した結果、薄き出されたフレームの太さが、一辺1インチだったことに由来する。その魅力を生かすために、フレームだけの状態も並べて展示した。1944年から製造され、現在もエメコの代名詞になっているNAVY CHAIRを思わせる、ベーシックなフォルムが特徴的。アームチェア、アームレス、スツール、テーブルがそろう。

Zanotta

他社ブランドの製品も取り入れてシーン別にスタイリングし、映像と共に具体的なイメージを伝えたZanotta。このブランドがラインアップする20世紀を代表するような名作家具も、ごく自然に現代的なインテリアに溶け込ませていた。世界観を伝えることに大きく舵を切った見せ方には十分なインパクトがあったが、個々の製品の魅力が埋もれがちだったのは確か。スタイリングは Alessandra Salaris 率いる Studio Salaris が担当。



INTERVIEW

Designer's Talk



Erwan Bourbullec

ポートレート撮影 / 土田貴宏



1 ヴィトラのブースに展示された「Softshell Side Chair」

2 ロナン&エルワン・ブルレックがデザインしたグラストリアの新作「nesting tables」

Q1: Vitra から発表した新作「Softshell Side Chair」について説明してください。

A 2008年発表の「Softshell Chair」をアレンジしました。これは丈夫で快適なイスであり、ヴィトラにとって重要なプロダクトです。脚部はプラスチックですが、そうは見えません。開発時に時間を掛けたのは、内部の見えない部分でした。

Q2: アームの有無は、イスの美しさにどんな影響がありますか。

A 私達は、美しさを重視してデザインすることはありません。アームチェアはアームチェアとして、サイドチェアはサイドチェアとして、人間工学やサイズなど多くの要素に配慮し完成度を高めることで、自然と美しいイスになるのです。

Q3: あなたのデザインには、共通するフォルムのイメージがありますが、それは意識していますか。

A 美しさに配慮はしていますが、そのためのプロセスは特にありません。博物館で見る古代のポウルや水差しが美しいのは、背後に人の存在や行為があるからです。ものの奥底に人間性があるのは不思議なことですが、そこがとても重要です。デザイナーは、その人間性を守らなければなりません。

Arper

コントラクト市場で強みを発揮し、ミラノサローネで最も活気あるブランドの一つであり続けているイタリアのアルペール。新作のイス「Cia」は、このブランドの代表的な製品の多くを手掛けるスペインの Lievore Altherr がデザインした。シェルはプラスチックで、クッション部分の有無などのバリエーションがあり、学校用の仕様なども開発中だという。アルペールの新しいスタンダードに位置付けられそうな汎用性の高い1脚だ。

